

主題名 「誰もが参画できる社会に」 (第2学年 C-12 社会参画、公共の精神)

■本事例のポイント

1. 机間指導の際に生徒の言葉を積極的に拾い板書することで、多面的・多角的な視点から社会参画について考えられるようにした。
2. 各グループにファシリテート役の生徒を配置し、「問い返し匠の技シート（次ページ参照）」を活用することで、生徒が主体的に議論を深める自走型の授業を目指した。

■ユニット学習の目標

誰もが生きやすい社会をつくるために、あなたはどうすればよいだろう？

* ユニット学習・・・テーマに基づいた複数の価値を関連付けて、複数時間で小単元化して構成する授業方法

■ユニット学習の指導計画（2時間）

第1時「OriHimeがつなぐ世界」

- ・授業前に事前範読を行っておき、話合いの時間を確保する。
- ・導入：教材理解を深めるためにアドジャントークを行う。大テーマを提示する。
- ・展開：グループごとに問いを設定し、生徒同士で意見交流をしながら考えを深める。
- ・終末：話合いの様子を踏まえ、全体共有をしながらまとめを行う。

第2時「OriHimeがつなぐ世界」

- ・導入：前時のフィードバックを行い、アドジャントーク、動画視聴をする。
- ・展開：グループごとに問いを設定し、問い返しを通して考えを深める。
- ・終末：教師の介入を通して再び大テーマに迫り、振り返りを行う。

■本時の概要

グループの問い
社会に通用するために自分には何ができるのだろうか
不安や孤独はどうやったら解消されるのだろうか
社会（学校生活など）に関わる中で、私がみんなのためにできることはなんだろうか？
一人ひとりが、自分の孤独や不安を解消するためには何をすれば良いのだろうか。
社会（学校生活など）私が生きづらさを感じる理由とは？

グループごとに生徒が話し合い、課題を決定することで、全員が問いについて考える意欲をもつことができます。

グループでの問いを設定する際の深掘りポイント

① 社会の中の自分のために

② 社会の中の皆のために

この視点を大切にしながら問いを考えよう。



導入

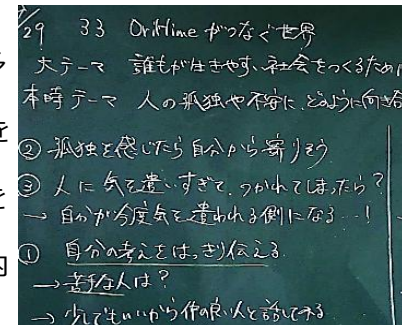
- ・前時のフィードバックを行う。
- ・内容項目に関連する身近な出来事についてアドジャントークを行う。
- ・教材に出てくる登場人物が出演する動画を視聴し、障害をもつ人が精一杯、社会参画しようとする姿から問題意識をもたせる。

展開①

- ・グループで問いをつくる。
- ・つくった問いについて個人で考えた後、グループごとに話し合う。
- * 問いをつくる際、教師は問いづくりの視点を提示しておく。
- * 新たな視点を得る話合いにするために問い返しシートを活用する。

展開②

- ・社会参画について、多面的・多角的な視点から考える。
- * 机間指導の際に生徒の言葉を積極的に拾い、板書しておく。
- ・各グループがどのような問いをもったか全体共有する。
- * 教師がファシリテートしながら内容項目に迫る。



グループの問い
社会に通用するために自分には何ができるのだろうか
不安や孤独はどうやったら解消されるのだろうか
社会（学校生活など）に関わる中で、私がみんなのためにできることはなんだろうか？
一人ひとりが、自分の孤独や不安を解消するためには何をすれば良いのだろうか。
社会（学校生活など）私が生きづらさを感じる理由とは？

■ 学習調整をしている子供の姿

番号	グループ	グループの問い
①		社会に通用するために自分には何が出来るのだろうか
②		不安や孤独はどうやって解消されるのだろうか
③		社会（学校生活など）に関わる中で、私がみんなのためにできることはなんだろうか？
④		一人ひとりが、自分の孤独や不安を解消するために何をすれば良いのだろうか。
⑤		社会（学校生活など）私が生きづらさを感じる理由とは？

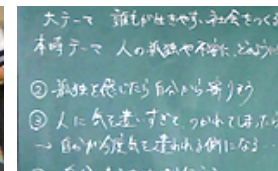
グループごとに問いを設定することで、問題意識をもちながら主体的に学習を進められます。



個人で追求し、自分の意見をもつ。



グループで対話し、考えを深める。



他グループの考えから視点を広げる。

問い返し 匠の技

困った時は、これを使おう！

なぜそう思ったの？

・理由を明らかにすることで思考を深められます。
・論議の過程で、他者の考えが自分からいかに思っているかを理解しやすくなります。

他にどんな考え方があると思う？

・多様な視点や別の可能性を考えることができます。
・自分の考えを述べた上で、他者の考えを聞いてみることで、自分の考えを改めて考えることができます。

もし～だったら？

・状況を想像しやすくなることで、思考を深められます。
・もし～、～なら～という仮定から、自分からいかに思っているかを理解しやすくなります。

それは、どういうこと？

・自分の考えを具体的に説明しやすくなります。
・説明の過程で、自分からいかに思っているかを理解しやすくなります。

*「問い返し匠の技シート」・・・話し合いの活性化を目指して学校で取り組んでいる問い返しの例をまとめたシート

大テーマ「誰もが生きやすい社会をつくるために、あなたはどのような役割を担うだろうか？」 2年 低名	
学習前「誰もが生きやすい社会をつくるために、あなたはどのような役割を担うだろうか？」	
あなたが抱える社会的な（学校生活等での）生きづらさ（困りごと）は？	
9/25（木）33「OnTimeがつく世界」 テーマ：OnTime授業について考えよう	9/29（月）33「OnTimeがつく世界」 テーマ：人の孤独や不安に、どのように向き合えば社会と関わればよいのだろうか？
【グループでの問いの設定】	【グループでの問いの設定】
学習後「誰もが生きやすい社会をつくるために、あなたはどのような役割を担うだろうか？」	
【自由発想】	【振り返り】 4人できたら 3人できたら 2人できたら 1人で考えてみよう 3人で考えてみよう 2人で考えてみよう
ユニットを通して、考えを深めたり、新たな考えを得ることができましたか？	

社会参画のために今できることは人とコミュニケーションを取ったり、ルールを守ったり・・・

■ 指導と評価の工夫

① 共有方法

- * グループで考えた問いを全体に共有することで、他者の視点や活動の様子を知ることができ、学びの広がりを生むことができる。
- * クラウド上で全員のワークシートを一覧表示し、個々の考えを可視化することで、相互理解を深め、対話の質を高めることができる。
- * 教師が各グループの対話からキーワードを抽出し、黒板に整理することで、思考の広がりを促すことができる。
- * 教師が学習の進捗を見取り、全体で議論すべき問いを投げかけることで、学びをつなぎ、深めることができる。

② 生徒の主体的な学びを支える支援

- * 深掘りポイントを提示し、問いづくりの視点をもたせる。
- * 問いづくりが難しい場合には、教師が準備した問いを選択させることで学びの停滞を防ぎ、議論を円滑に進める。
- * 「問い返し匠の技シート」を活用することで、生徒同士の対話が深まり、議論の質の向上につながる。

③ ワークシートの工夫

- * ユニット全体の学習を1枚のワークシートに集約することで、教師は指導の効果を把握しやすくなり、生徒も学びの成長を実感することができる。

■ 成果（○）と課題（▲）

- 生徒自身で考えて問いを立てることが、自分たちの答えを探そうとする原動力につながった。また、問い返しを通して積極的に考え、議論が活性化する姿が見られた。
- ▲ 関連項目の「友情・信頼」に焦点が当たる展開になりかねないので、内容項目に迫れている生徒を取り上げ共有するなど、教師の支援が必要である。